

1. 成果名 ハウスミカン果実肥大期における後夜半の変温管理技術

2. 成果の内容 ハウスミカンにおいて、重油消費量の多い果実肥大期に、後夜半の温度を2～4℃下げる変夜温管理を検討したところ、果実品質や収量に対する影響は少なかった。重油削減率は6.3%であった。

3. 具体的データ

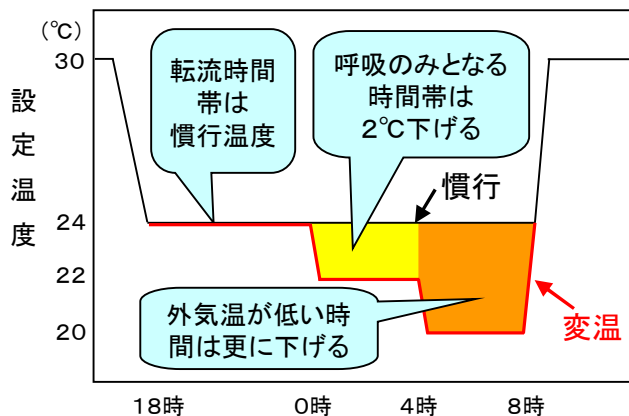


図1 変温管理の模式図(満開後53～108日)

表1 温度管理の違いと重油使用量及び削減率(2007年産)

試験区	全加温期間		変温期間中	
	重油使用量	削減率	重油使用量	削減率
	リットル	%	リットル	%
慣行区	4,791.2		1,960.4	
変温区	4,489.6	6.3	1,624.2	17.1

注) 重油使用量は、面積150㎡の試験ハウス1棟あたりの使用量。

注) 加温は満開後128日まで。変温は満開後53日から123日まで。

表2 温度管理の違いと果実品質及び収量(2007年産)

処理区	Brix	クエン酸	糖酸比	樹当収量	一果平均重	樹容積当収量
	%	%		kg	g	kg/m ³
慣行区	14.2	0.84	17.2	87.0	72.8	3.89
変温区	14.6	0.78	19.0	88.9	75.0	3.77
有意性	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.

注) 有意性は t-test による。

連絡先：愛知県農業総合試験場園芸研究部常緑果樹グループ
 担当者氏名 本美善央
 TEL 0533-68-3381 FAX 0533-68-3728